

# 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について 「学習者主体の授業」の提案 ～令和5年度鹿児島学習定着度調査を活用して（英語）～

義務教育課

## 調査を振り返って

令和6年1月に実施した鹿児島学習定着度調査におきましては、一定の成果が見られたものの、依然として課題となっているものについても明らかになりました。本調査では、令和5年度全国学力・学習状況調査の類似問題も出題しましたが、授業改善に十分生かされていない状況も見られました。国立教育政策研究所から令和5年7月に出されました「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書」には「授業アイデア例」も掲載されていますので是非活用してください。

特に課題となったのは、中1においては、メッセージの内容を捉えて自分なりの考えを書く問題、スピーチの原稿を読んで要点を捉える問題、単語を書き換えて文章を完成させる問題、be動詞の否定文の語順を問う問題でした。中2においては、スピーチの原稿を読んで要点を捉える問題、単語を書き換えて文章を完成させる問題、与えられた情報を基にメッセージを書く問題、条件に沿ったまとまりのある英文を書く問題でした。授業の中で意図的に扱って改善を図ってください。

## 特徴ある問題から

中1 11 平均通過率：39.4%

メッセージの内容を捉えて自分なりの考えを書く問題

11 あなたは、フィリピン (the Philippines) から来日したばかりの新しいALTのマイク (Mike)先生と対話をしています。先生からの問いかけに、あなたは何と答えますか。対話文中の空欄に英語で簡潔に書きなさい。



It's so cold\* here. In the Philippines, it's always\* hot.  
I want to enjoy four seasons here in Japan. Which is your favorite season?

(注) cold 寒い always いつも、常に

Please enjoy Japan!

【正答例】 My favorite season is fall.

【解答のポイント】

- ・問われていることへの理解
- ・対話の流れの把握
- ・基本的な文や語彙の定着

中2 11 (1) 平均通過率：35.7%

単語を書き換えて文章を完成させる問題

11 次の(1)、(2)について、(例)を参考にしながら、( )内の語を適切な形に変えたり不足している語を補ったりして、対話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) 〈教室で〉  
Takashi: What is Misaki doing?  
Chris: She ( study ) English.  
【答え】 is studying

(1) 〈休日に友人宅で〉  
Chris: Wow! That's a nice picture. Did you take it?  
Takashi: Yes. ( use ) my father's camera and took it.  
Chris: I see.

【正答】 I used

【解答のポイント】

- ・基礎的な文法知識（文構造）
- ・時制の変換

## 課題の要因

- 目的・場面・状況が明確で、生徒が主体的に（実際に英語を使いながら）取り組める言語活動が不足している。
- 既習の表現等を繰り返し使わせながら定着を図るような系統的な学習が不足している。（簡単な内容を即興的に話させる学習の継続的な取組など）
- 生徒が自らエラーに気付くことができるようなフィードバックの工夫が不十分である。
- 与えられたテーマや聞いたり読んだりして思ったことなどについて話したり、書いたりする学習が不十分である。（正確に書く練習も含めて）

## 授業づくりのポイント

「学習者主体の授業」を通して上記課題等の解決を図るために、以下を実践しましょう。

- オリジナルの「CAN-DO リスト」を基に、その授業で生徒は何ができるようになるのかを明確にし、生徒と共有した上で指導することを基本としましょう。
- 指導と評価の一体化を図るために、学期や単元に入る前に評価問題を作成し、日々の授業が確実に単元等のゴールに向かうよう指導に当たしましょう。
- 授業では Teacher Talk（生徒に合わせた英語使用の工夫）を意図的に行い、生徒との音声による英語でのやり取りを充実させ、特に定着が悪い事項の使用頻度を上げましょう。
- 生徒が主体的に行う即興的に話す言語活動を継続的に設定しましょう。（意見等を交換する授業導入時の帯活動など）
- テーマに沿って話したり書いたりする機会を意図的にできるだけ多く設定しましょう。簡単なものから始め、エラーがあった場合は生徒の気付きを促しながらフィードバックしましょう。
- グループ内で、話し相手が何（どんな情報）を求めているかを確認し、何と答えたらよいか、教科書も参考にしながら表現を検討して話したり書いたりする活動などを通して、言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける力を育成しましょう。